



## 『剣道をやって学んだこと』

高知県  
致道館少年剣道教室  
小学6年生 大塚 千 晴

私の兄と父は剣道をしています。私は小さい頃から兄の稽古を見に行っていて「私も早く剣道がしたい。」とっていました。

そして幼稚園の年長でやっと剣道を始められるようになりました。私はすぐに道場の友達と仲良くなりました。また、間もなくして先生から稽古着や防具をつけるように言われ1年生の春には初めて試合にも出させてもらいました。とても楽しかった記憶があります。

その後、道場の仲間も増え、いろいろな大会にも出させてもらい、個人や団体が優勝するという経験もしました。

低学年の頃は、このように楽しいことばかり続いたのですが、学年が上がってくると、先生に注意されることが増えていきました。時に、自分はできていると思っていることを先生に注意され、「剣道っていやだな。」と思うこともありました。

一方で、私が4年生の時、兄が夏の全国大会の個人戦と、都道府県大会の県代表に選ばれ、兄の頑張っている姿を見て「私も兄のように県代表として全国大会に行きたい。」と強く思うようになりました。

けれども、相変わらず先生には、同じことを何度も注意されていました。私の剣道の先生は私の父です。注意を受けるたびに「他の人もできていないのに、何で私だけ同じことばかり。」と素直に聞くことができず、つい反抗的な態度をとってしまうのでした。

6年生になり、夏の全国大会の出場をかける大会が近づいてきたある日、「この調子だと5年生にも負けるよ。」と先生に言われました。その言葉を聞いても私は「絶対に負けない。」とっていました。しかし、大会当日本当に5年生に負けてしまいました。私はすごく悔しくて、立ち直れない程落ちこみました。剣道をやめたいと本気で思うほどでした。

しかし、しばらくしてようやく自分の何がいけなかったのかを考えられるようになりました。そして、先生が私のためにくり返し注意してくれたことを素直に聞けず、きちんと受け止めて稽古にはげむことをしなかった自分を反省しました。

それからは気持ちをきりかえ、先生の言葉を素直に聞いて稽古にはげみました。自分なりに自主練習も続けました。

そのかいあって、私は兄と同じように都道府県大会の県代表に選ばれ、更にその後の県大会では、高学年女子の部で優勝することもできました。私はすごくうれしかったし、「やればできる。」と改めて思いました。

9月の都道府県大会では、日頃他の道場で対戦する相手と同じチームの仲間になり、県代表として心を一つにして戦うことができ、とても貴重な経験をすることができました。

楽しいこともつらいこともいろいろありましたが、6年間頑張って剣道を続けてきて本当に良かったと今は思います。私が続けてこられたのは、たくさんの人に支えてもらったおかげです。いつも熱心に教えて下さる先生方、日々の稽古や試合でお世話をして下さる保護者の方々、目標となる兄、そして厳しい稽古と一緒に頑張ってきた仲間のおかげです。一緒に泣いたり笑ったりしてくれる道場の仲間は私にとって本当に大切な存在です。また、たくさんの試合に出させていただきましたが、それ

らの大会ができるのは、審判や役員の方、そして大勢の対戦仲間のおかげだということもわかりました。

剣道は一人ではできません。だから支えて下さる方々に感謝の気持ちを忘れず、真っ直ぐな気持ちで頑張っていきたいです。

「みんなのために尽くす子供になります。」これは私の道場の誓いの言葉です。私が支えてもらったように、私も仲間の支えになれるように心を配り、私ができることを精一杯つくしていきたいです。